研究テーマ

相手のよさに気付き認め合うための援助の工夫

～ごっこ遊びを通して～

沖縄市立宮里幼稚園
教諭　　大城　雅美

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼児期は、将来にわたり人とかかわりながら生活を営んでいくための基礎となる力を培う時期である。しかし、近年の情報化，核家族化、少子化が進む社会背景は，幼児の生活にも大きく影響し，地域における遊び仲間や遊び場の減少などから，子ども達が刺激し合いながらいろいろな感情体験を味わう機会が少なくなっている。そのため，幼稚園生活において子ども同士がぶつかり合ったり，喜んだり，悲しんだり，我慢したりなどし，葛藤やつまずきを体験する中で，“友達がいるから楽しい“と感じられるようになることが大切なことであろう。

幼稚園教育要領によると，人とのかかわりに関する領域「人間関係」では，他の人々と親しみ，支えあって生活するために，自立心を育て，人とかかわる力を養うと示されている。幼稚園生活において教師との信頼関係を基盤にして，身近な人々と安心して触れ合いながら様々な活動を楽しんだり，一緒に行動することの喜びや充実感を味わったりすることは，人と積極的にかかわって生活を営もうとする意欲を育てるために大切なことである。その中で自己を発揮し，相手を尊重する態度を身に付けていくことにつながっていくとある。

本園の園児の実態を見てみると，明るく元気な子が多いが，自分の思いが優先になり人の話しが聞けない子や、逆に自分の思い・考えを表現するのが苦手な子，困ったことが起こると泣いたり，黙り込んだりする子もいる。中には友達とすぐにトラブルを起こしてしまう子もいる。また，同年齢の幼児とかかわる経験があまりなくて，どう接したらいいのかわからず一人で過ごしている子がいたり，教師や大人とは進んでかかわろうとするが、友達同士ではうまくかかわれない子の姿も見られる。

そのような幼児の実態から，教師は一人一人の幼児を理解し，自分の思いが伝えられるように援助したり，幼児同士の心をつないでいくことが大切であると考える。これまでの保育を振り返ってみると，幼児一人一人に寄り添い，教師と幼児の関係を築きながら幼児のよさを見つけるよう努めてきた。しかし，そのよさを認め，しっかり伝えることで自己肯定感を高めてあげたり，幼児に互いのよさを認めさせる機会をもっと多く作ることが必要ではなかったかと反省する。

幼児にとって友達は、発達を大きく促してくれる存在である。幼児が自ら興味や関心を持ち，幼児同士のつながりが広がるような遊びや環境の構成を工夫していくことで人とかかわる楽しさを味わい，進んで活動に取り組むことができるであろう。また，教師や友達とかかわる中で、自分の思いを相手に伝えたり、相手のよさに気付かせる場や機会を設定し，それを経験させる援助を工夫することで，一緒に活動する楽しさを味わい，友達関係が深まっていくと考える。

「ごっこ遊び」は，遊びの主体である幼児自身がイメージを実現しようと自分を出し，見つけていく場であると共に，友達との遊びの中でたくさんのことを学び，友達関係を深め，広げていく場であると捉える。そこで，「ごっこ遊び」を通して，幼児同士の心をつなげる教師の援助の在り方を探り，そのような機会をつくり、経験させながら、相手のよさに気付かせることで，幼児が互いに認め合い，育っていくのではないかと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ　目指す幼児像

○　友達と進んでかかわり，いきいきと活動する子

○　友達のよさに気付き，認め合うことができる子

Ⅲ　研究目標

友達とかかわって遊ぶ活動を通して，幼児が相手のよさを認め，共に育ちあうための援助の在り方を充実させる。

Ⅳ　研究仮説

１　基本仮説

ごっこ遊びを通して，自分の思いや考えを伝えたり，相手の思いにも気付かせることによって，互いによさを認めあうことができるであろう。

２　具体仮説

(1)　「人とのかかわり」の意義を捉え，幼児の実態を把握することで，教師の援助の在り方が明確になるであろう。

(2)　他児とのかかわりを意図的に計画し，人とかかわる楽しさを味わわせることで，自分の思いや考えを伝えることができるであろう。

(3)　遊びの中で，お互いのよさを認め合う機会を持つことで，自己肯定感も高まり，よりよい関係作りができるであろう。

Ⅴ　研究構想図

次ページ

Ⅵ　研究内容

１　研究内容１

(1)　幼児期の発達の特性と人とのかかわり

①　幼児期の発達

およそ２歳ごろから６歳までを幼児期とよぶ。それまで母親や身近な人の保護や援助がなくては，ほとんど自分では何もできなかった子どもが，身の回りのことができるようになり，言葉を獲得するとともに，人とかかわる力をつけ，環境に積極的に働きかけることができるようになる。そのため幼児期は依存から自立への時期，社会化への始期などとも言われる。

②　言葉の発達と人とのかかわり

言葉は，人間関係の中で互いの意志伝達の媒体として重要な役割を果たすものであり，身近な人とのかかわりを通して，以下のように獲得されていくものである。

新生児期（誕生から１ヶ月頃まで）	・産声 ・叫喚（苦痛，空腹など何らかの要求表現）
乳児期（誕生から１歳頃まで）	・喃語（声遊びとよばれ，将来の音声の訓練になる） ・音声の摸倣（言葉獲得への準備期） この時期は大人の適切な言葉かけや接触，目と目の合う関係が大切である。
幼児前期（１歳から３歳頃まで）	指差しや一語文などの有意味語が成立し，２歳半から３歳にかけて語彙が急激に増大する。文章の構造面で，ほぼ完成に近づくのも３歳頃である。
幼児後期（４歳から６歳）	語彙の増大，文法の取得，複雑な文の獲得とともに，言語による伝達が発達し，個人同士の交渉が可能になってくる。しかし，自己中心的な言語が多い。

Ⅴ　研究構想図

研究テーマ
相手のよさに気付き認め合うための援助の工夫
～ごっこ遊びを通して～

園教育目標
○元気で明るい子
○考えて行動する子
○思いやりのある子

目指す幼児像
○友達と進んでかかわり，いきいきと活動する子
○友達のよさに気付き，認め合うことができる子

社会的背景
核家族化，少子化，情報化などの進展により，他者と触れ合って遊ぶ直接的体験が少なくなっている。

幼児の実態
○明るく元気な子が多い。
○自分の思いや考えを表現することが苦手な子もいる。
○友達とすぐにトラブルを起こす子がいる。

教師の実態
幼児理解に心がけながら，幼児同士のつながりを深める保育の在り方を模索中である。

家庭・地域の実態
○核家族が多く，両親共働きで学童や預り保育の子が多い。
○園に対して協力的な保護者が多い。

研究目標
友達とかかわって遊ぶ活動を通して，幼児が相手のよさを認め，共に育ちあうための援助の在り方を充実させる。

研究の基本仮説
ごっこ遊びを通して，自分の思いや考えを伝えたり，相手の思いにも気付かせることによって，互いによさを認めあうことができるであろう。

県教育施策
○遊びを通しての総合的な指導の充実
○基本的な生活習慣の形成
○園内研修の充実

市教育施策
望ましい環境を通して行う幼児教育の充実

具体仮説１
「人とのかかわり」の意義を捉え，幼児の実態を把握することで，教師の援助の在り方が明確になるであろう。

研究の内容１
○幼児期の発達の特性
○幼稚園教育要領「人間関係」についての捉え
○幼児の実態把握
・アンケート分析
・ソシオメトリー

具体仮説２
他児とのかかわりを意図的に計画し，人とかかわる楽しさを味わわせることで，自分の思いや考えを伝えることができるであろう。

研究の内容２
○遊びの精選と実践
・ごっこ遊び
○環境構成の工夫

具体仮説３
遊びの中で，お互いのよさを認め合う機会を持つことで，自己肯定感も高まり，よりよい関係作りができるであろう。

研究の内容３
○お互いのよさを認め合う保育の実践

検証保育の計画・実践・分析・考察

研究のまとめ・研究成果と今後の課題

幼児後期の自己中心的な言葉とは，まだ単語で伝わるものと思っていたり，話したつもりで相手に話が伝わっていないことに気付かずにいるようなことである。

幼児は，身近な人々や友達と過ごす中での多くの社会的学習を通して，自己中心的な言葉から協力関係というような相互交渉が可能になることが大切である。

幼稚園において幼児は，教師や友達とかかわりをもち，親しみを感じると相手に気持ちを伝えようとする。気持ちを自分なりの言葉で表現したとき，相手がうなずいたり，言葉で応答したりすると楽しくなり，もっと話そうとする。自分の話を聞いてもらう満足感を味わうことにより，人の話も聞こうとする気持ちになるのである。友達と気持ちがすれ違った時，考えが合わなかった時，けんかが生じることもあるが，自分と相手とぶつかり合い，お互いの思いを出し合うことで相手にも気持ちがあることを知ることができるようになるのである。幼児は，その過程を通して，相手との会話の仕方や話し方を学び，言葉を使ってのコミュニケーションが可能になるのである。

⑵幼稚園教育要領「人間関係」についての捉え

① 幼稚園教育要領「人間関係」のねらい

・幼稚園生活を楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わう。
・進んで身近な人とかかわり，愛情や信頼感をもつ。
・社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

② 人とかかわる力とは

保育用語辞典によると「人とかかわる力」とは，相手に自分の気持ちや考えを言葉や態度で伝えられるようになり，相手の気持ちや考えを受け止め，それを自分の気持ちや考えなどと調整し，お互いが支えあったり，思いやったりしながら，人と一緒にいることの楽しさを共感・共有することができる力である。つまり，発信者と受信者の双方に「伝える力」と「受け取る力」が必要になる。

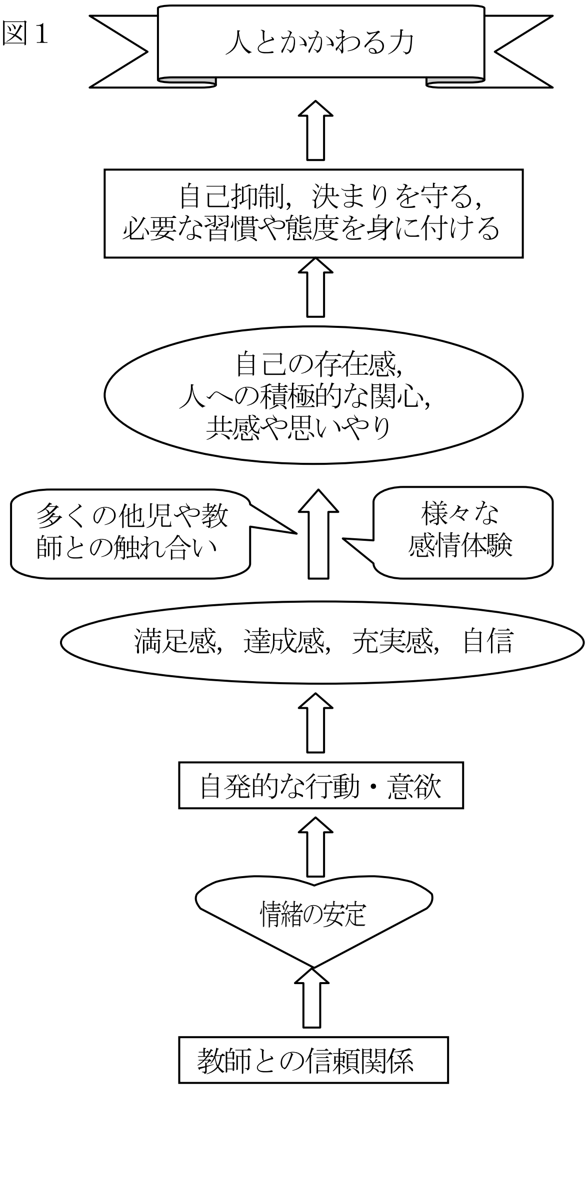
人とかかわる力の基礎は，自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安心感から生まれる人に対する信頼感を持つこと，さらに，その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われるのである。

③ 幼稚園における人とのかかわり

幼稚園生活においては，何よりも教師との信頼関係を築くことが必要であり，それを基盤としながら，幼児が多くの他の幼児や教師と触れ合う中で，自己の存在感や他の人々と共に活動する楽しさを味わうことで，人とかかわる力が育っていくのである。

幼稚園における人とのかかわりが育つ過程を幼稚園教育要領解説の中から図１のようにまとめてみた。

図１



④　信頼関係を築くための教師の役割

幼稚園において，人とかかわる力の基盤となる“教師との信頼関係”は，教師が一人一人の幼児の思いを受け止め尊重しながら，その幼児が自分の力で歩き出せるように援助することと，幼児が教師に受容され，自分の気持ちを共感してもらう体験を多くもつことの相互関係によって築いていくのである。

ア　温かい関心を寄せる

・幼児のありのままの姿をそのまま肯定的に受け止め，期待をもって見守る。
・一人一人の幼児が自分から伸びていく力を持っている存在であることを信頼する。
・どの幼児の動きにも心を配れるような位置に居るように心がける。
・一人一人の幼児が様々な形で送ってくるサインを受け止めて応じるよう努力する。
・やたらにほめたり，励ましたり，つきまとったりするのではなく一人一人にあった効果的なほめ方，認め方をする。

イ　心の動きに応答する

・答えを示すのではなく，幼児の心の動きにそって共に心を動かしたり，知恵を出し合ったりする。

このように教師に受け止められている実感から，自信や意欲につながり自己を発揮するようになる。

⑤　友達とのかかわりで育つ姿

自己を発揮して遊ぶようになると，次第に他児とのかかわりをもつようになる。幼稚園教育要領解説書で「幼児の心身の諸側面は，それぞれが独立して発達するものではなく，友達と身体を動かして遊びを展開する中で，それぞれの側面が関連しあうことにより，発達が成し遂げられていく」とある。そこで友達とのかかわりで育っていく姿を次のように捉えた。

○　自己の存在感や友達のよさに気付き，共に活動する楽しさを知るようになる。
○　自分とは違った友達への積極的な関心，共感や思いやりなどをもつようになる。
○　様々な体験を通して，うれしい，悔しい，悲しい，楽しい等の感情を味わうようになる。
○　良いことや悪いことに気付き，考えながら行動できるようになる。
○　決まりの大切さに気付き，守ろうとする。
○　相手に気持ちを伝え，伝わることでより親しみを持つ過程を経て，相手の思いにも気付くようになる。
○　自己主張のぶつかり合いや，トラブルなどの負の体験を通して，相手の立場に思いを寄せたり，自己抑制ができるようになる。
○　友達と共に遊ぶ楽しさを経験していくうちに，友達と一緒に物事をやり遂げようという気持ちをもつようになる。

このように，一人一人の幼児の発達は，友達や教師が共に生活する中で促され，幼児同士が良い刺激を受けあい，様々な体験を重ねることにより相互に影響されながら育まれていくものである。

(3)　幼児の実態把握

①　実態把握アンケート

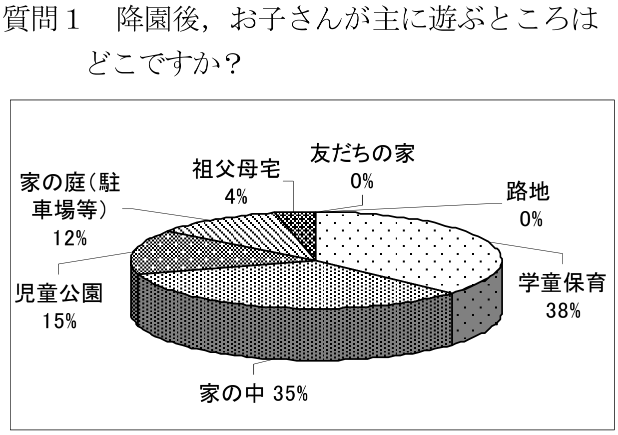
○　調査目的

幼児の家庭での様子や人とのかかわり，また，保護者の意識を把握し，本研究の資料として役立てる。

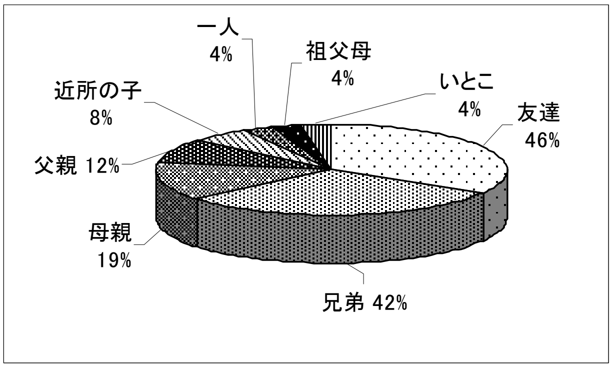
○　調査方法

・対象：宮里幼稚園３組 32 名の保護者
・調査日：平成 18 年 10 月 25 日
・回収率：81％

質問１　降園後，お子さんが主に遊ぶところはどこですか？



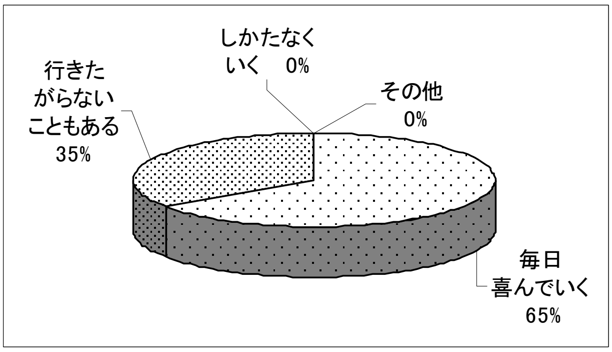
質問２　お子さんは主に誰と遊んでいますか？



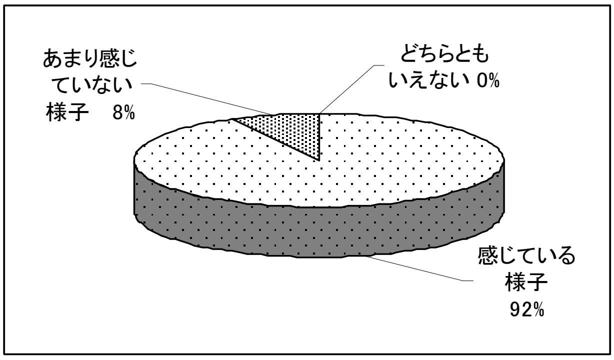
(考察)

質問１・２から降園後に学童に行き，友達とかかわることがある子を除いては，家の中や駐車場で祖父母，いとこを含む家族とだけ遊ぶ子がほとんどであることがわかった。子ども達は，身体を思い切り動かして遊ぶ体験が少ないうえ，かかわりをもつ相手が固定的で，友達とかかわる機会が少ないと思われる。

質問３　登園時の様子はどうですか？



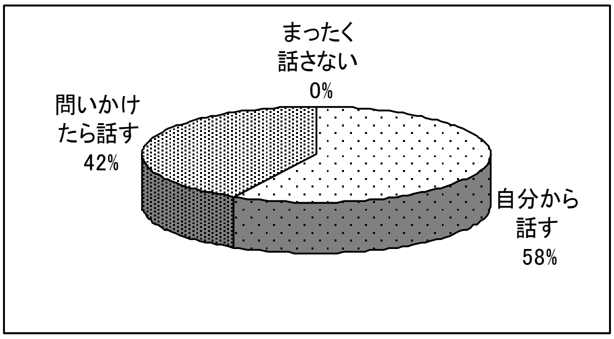
質問４　お子さんは「幼稚園は楽しい」と感じている様子ですか？



(考察)

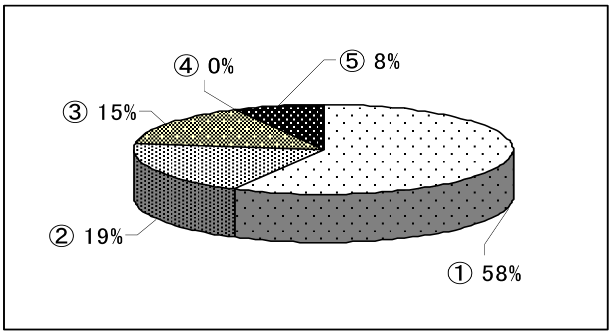
質問３，４から幼稚園に行きたがらないこともある子が 35%，幼稚園を楽しいと感じていない様子である子が８％(２名)いることがわかった。

質問５　お子さんは，帰宅して園での様子を話しますか？



質問６　話の様子から友達の名前がでますか

①よくでる（複数の名前)	15 人(58%)
②よくでる（同じ名前のみ)	５人（19%)
③時々友達の名前がでる	４人（15%)
④あまり友達の話はしない	０人（０%)
⑤遊び（生活）の様子のみ話す	２人（８%)

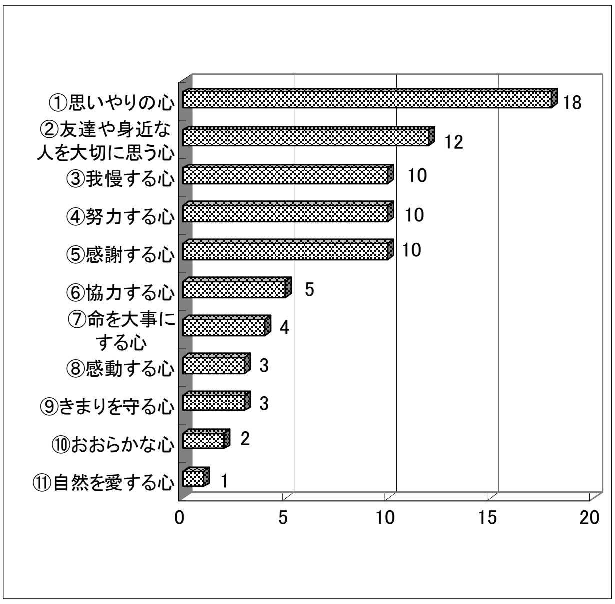


(考察)

「園での様子をまったく話さない」子は，いなかったが，自分から進んで話す子が 58%と少ない。

また，自分から話す子の 87%が友達の名前がよく出てくる（複数の名前 77%，同じ名前 23%）こともわかった。友達と楽しく遊んだ出来事を家族の人に伝えたいという気持ちが表れているように思える。

質問７　お子さんに身につけて欲しい心はどれですか？（３つ選ぶ）



（考察）

子どもに身について欲しいと思う心の上位は，「思いやり」「友達や身近な人を大切に思う」「我慢する」「感謝する」があげられている。それらは，幼児が人とのかかわりの中で身につけていくものであるため，大切にしていきたい。

《考察：園生活の重要性の再認識》

保護者が「子どもに身に付けさせたいと思う心」の上位を示したのは，人とのかかわりで育つものであることがわかった。しかし，降園後の幼児の実態をみると，安全面に配慮して戸外で遊ばせない家庭もあり，幼児が友達とかかわって遊ぶ機会が少ない現状にある。

幼児がのびのびと身体を動かして遊んだり，教師やたくさんの友達とかかわり，ともに活動する楽しさや様々な感情体験を味わうことができる幼稚園での生活を充実させていくことが大切であると実感した。幼児が安心して自己発揮し，人とかかわることができる場や時間の確保が必要であろう。

表を作成したところ，友達を１名だけしか選択することができなかった子３、７名の友達から

② ソシオメトリック・テスト

ソシオメトリック・テストとは，子どもにクラスメートの写真や名前の書かれたリストを見せて，各クラスメートとどのくらい一緒に遊びたいかを評定してもらう『仲間評定法』と，好きなクラスメート「選択」と嫌いなクラスメート「排斥」を数名あげてもらう『仲間指名法』がある。

子どもの仲間内地位を検討したり，クラスの中でのグループなどを知ることができ，友達関係を広げたり，新たな友達作りをすることもできるテストである。

本研究では，クラスの中での友達関係を把握し，遊びを計画していくための参考にするため，クラスの中で好きな友達を３名あげてもらう「選択」だけを行なった。好きな友達と遊ぶことで幼児は自己を表現し，相手を受け入れやすいと考え，あえて「排斥」（嫌いな友達をあげてもらう）は行わないこととした。

● ソシオメトリック・テストの結果

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	◎	○
1									◎	◎																							2	0
2				◎				◎				○																					2	1
3								○																									0	1
4		◎										○																					1	1
5																																	0	0
6								○			◎																						1	1
7	○													◎	◎	◎																	3	1
8		◎											○																				1	1
9	◎																																1	0
10	◎					○						○		○																			1	3
11						◎																											1	0
12					○								○			○																	0	3
13		○		○	○						○																						0	4
14			○	○		○	◎						○		○																		1	5
15							◎		○	○	○					◎																	2	3
16							◎		○	○				○	◎																		2	3
17																					○				○			◎		◎		○	2	3
18																						○				○					◎		1	2
19																		○					◎				○						1	2
20																					◎					○	○	◎	○		○		2	4
21																				◎		◎									○		2	1
22																					◎												1	0
23																		○	◎	○		○		◎			○					○	2	5
24																							◎		○							◎	2	1
25																																	0	0
26																			○				○	○									0	3
27																									○				○				0	2
28																	◎			◎										◎			3	0
29																	○																0	1
30					○												◎											◎	○				2	2
31																		◎															1	0
32																			○					◎		○				○			1	3
	3	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		

・１～16は男児，17～32は女児
・◎は選択した友達からも選択された相互の関係
○は相手からだけ選択された数

選択された子など，普段のかかわりや観察だけでは把握することができなかったクラスの仲間関係を知ることができた。

その結果，一人一人にあった援助の在り方の方向性が見えてきた。その例として，

・１名だけしか選択できなかった子は，その相手とのかかわりから友達関係が広がっていけるように援助していく。

・落ち着きがなく，乱暴な面が見られ誰からも選択されなかった子は，その子が選択した子との関係から友達とのかかわり方を学んでいけるように援助していく。

・すでに友達関係が成立し，いろいろなことに挑戦しようとする意欲の強い女児のグループは，さらに関係が深まるように援助していく。

２　研究内容２

(1) 遊びの精選と実践

①　遊びについて

幼児期の生活のほとんどは遊びによって占められている。遊びは生活に必要な意識的適応行動とは異なり，遊ぶこと自体が楽しいもので，自発的，自由な活動である。

また，自発的な活動としての遊びにおいて，幼児は心身全体を働かせ，諸能力を獲得していくのである。

ア　遊びの発達的役割

○　身体や運動能力の発達

子どもの遊びには，ブランコや滑り台，砂遊びなど身体を動かすものが多く，自発的に楽しんでいるうちに，調整力や敏捷性，平行性などのいろいろな運動機能を発達させていく。

○　知的発達

・幼児は，水や土，砂，おもちゃなど身近な環境にあるものを遊びの材料にし，遊ぶ中で自然に知覚，思考，推理などの能力，判断力が育つ。

・相手がいることで表現力や言語能力が養われていく。

・失敗を繰り返しては工夫し，創造性豊かに活動するようになる。

○　社会性の発達

・遊びの中でトラブルが生じると，ルールの必要性を知り，守ること，人を尊重することを学ぶ。

・葛藤場面を通じて，自己コントロールや集団の中の自分を感じ，自己を形成していく。

イ　遊びの発達と友達とのかかわり

乳幼児期の遊びは，単独での遊びから，双方向へのやりとりを含む遊びへと変化し，遊びが発達する中で友達関係や社会性が発達していく重要な活動と捉えることができる。

パーテン（Parten, 1932）は，「遊びの中での仲間とのかかわり」という遊びの社会的側面に注目し，子どもの遊びの発達尺度を次の６つに分類している。

遊　び	内　　容
専念しない行動	一人で身体を動かしたり何かをボーッと見ている状態
一人遊び	他の子どもとは違う遊びをしている状態
傍観者遊び	他の子どもの遊びを眺めているが，その遊びに積極的に参加しない状態
平行遊び	他の子どもと同じような遊びをしているが，お互いの交流がない状態
連合遊び	他の子どもと一緒に遊び，会話や遊具の貸し借りなどお互いの交流はあるのだが，遊びの中でのはっきりとした役割分担や共通のルールがまだない状態
協同遊び	他の子どもと一緒に遊び，集団の中での役割分担やルールが見られる組織的な遊び

本研究で取り入れる友達とのごっこ遊びは遊びを進める中で，この発達尺度の中の目標とする協同遊びへ発達していくと考える。

②　ごっこ遊び

ア　ごっこ遊びとは，幼児特有の活動でまねっ

こ遊びである。身近な人々やこと，ものに対する興味・関心からそれらに対して，自分の経験や願望，知っていることを盛り込んでイメージを実現しようとする遊びである。

イ　ごっこ遊びのもつ特性と意義

○　興味をもち，没頭して遊ぶことで表現の喜びを味わう。

○　摸倣遊びのように，自分が興味・関心を持った人に「なったつもり」でごっこを行うことで習慣や態度，知識や能力を身につける。

○　再現遊びのように，身近な生活の中から，お巡りさんや，消防署に働く人，看護師など興味・関心を持った人や物に「なってみよう」とすることで，社会的な生活の仕方を身に付ける。

○　簡単な社会のしくみや働きに興味・関心を深め，幼児なりに理解していく。

ウ　ごっこの中で育つもの

・全体的な発達の促進
・自己表現による情緒の安定
・知的な発達の促進
・人間関係の拡大

ごっこ遊びは，幼児の人間として認められたい基本的な要求を満足させると共に，そのことを通して，人間関係を拡大させていく。幼児なりに他人を認め，受け入れることにより，また自分を他人が認めてくれたという満足により，人間として成長していくのである。

エ　ごっこから劇遊びへの発展

ごっこと劇遊びの初歩の姿は一体である。

③　演劇活動
②　劇あそび（劇的な活動）
①　ごっこ　(そのものになりきって楽しく演じる。ままごと，お店ごっこ等)

幼児が日常生活の中で経験したことや，絵本・物語に出てくる話をそれぞれの幼児が役になりきって動くことで行なわれる。

○　劇遊びを楽しめるようにするために

・何かになって遊びたいという表現の意欲を幼児に起こさせる。
・幼児を主体にし，動きやことばを考えさせるようにする。
・一人一人がいろいろとなりたい役になって遊ぶ段階を経て，役を固定していく。
・お面や道具などを作ったり，動きやことばを決めていく。
・動きの流れの効果音などがあると，それを使って自分たちで劇遊びを楽しむことができ，また，劇遊びに向けての学級の雰囲気を盛り上げるのに効果的である。
・劇の流れが同じような動きを繰り返す場面で構成されていることや幼児の待つ時間を少なくするように構成されていることも大切である。

(2)　環境構成の工夫

幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではなく，生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して，人間形成の基礎となる豊かな心情，物事に自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度などが培われる時期である。

そのため，教師は，幼児の興味・関心をくみ取り，幼児の取り組み方や心の動きを理解し，豊かな体験をしていくことができるように遊びの流れにそったかたちで環境を構成していくことが大切である。

また，幼児の遊びは友達とイメージを共有することにより，広がりをもち深まっていくものであるから，幼児同士のつながりができるような環境構成が必要である。

①　年間指導計画の作成

幼稚園における幼児の発達の過程とごっこ遊びのもつ要素やその中で獲得されていくものを考慮し，環境構成を盛り込んだ「ごっこ遊び」の年間指導計画を作成した。

ごっこ遊びの年間指導計画

		Ⅰ期（４月～５月）	Ⅱ期（６月～８月）
発達の過程		◎教師との触れ合いや友達と遊ぶ中で，園生活に親しみ安定していく時期	◎園生活の中で安定し，気の合う友達とかかわりながら，遊びを広げていく時期
ごっこの位置づけ		・安心していられる場を求める活動，自発的に摸倣し，自己を出しやすくする活動としての意味を持つ	・個のイメージを試行し，ものを媒介にしたりしながら友達と触れ合える活動として意味を持つ
環境構成		○家庭で使った経験があるようなものや同じ類のおもちゃを数多く用意し，持ったり触ったりして安定できるような遊具をコー　ーに設ける ○遊びを楽しみながら周りの様子にも目を向けさせるように，遊びの中に自然物なども取り入れる。	○遊びに必要な遊具を取り入れながら遊び，かつ広がるように考慮する（積　，砂場遊具） ○友達に関心を持ち始めているので，少人数で遊　るコー　ーを多く設定し，同じ場で遊　るようにする。 ○好きな遊びをするための　分な時間と，遊びの　きができる場を設定する。
教師の援助		○遊びの中に進んで参加し，幼児と同じように一緒に楽しむようにし，幼児に安心感を持たせ，教師とのつながりが持てるようにする。 ○一人一人の遊び方を見守り，興味・関心を捉え，遊びへの方向付けをしたり，じっとしていたりする子は様子を捉え一緒に遊びに参加するようにする。 ○一人一人の幼児を理解し　認しながら集団での生活の仕方を個々に知らせる。	○興味を持って遊びに参加するように，幼児の実態を捉えながら喜んで参加できる活動を精選する。 ○遊びの中に加わり，遊びに必要な言葉やものに気付かせたり，遊び方を知らせたりしながら，遊びや友達との接触に，　　なく活動できるようにしむける。 ○自己主張のできない幼児には，遊びを通して自己表現できるように配慮する。
ごっこ・他の活動	個	ままごと，ブロック，積　，絵本，自由画，滑り台，砂遊び，　　や返事等	作，平　台・　技台，水遊び（シ　ボン　・色水），　とり等
	グループ	ままごと，大　積　，　びっこ，かごめかごめ，　いちもんめ，　ごっこ，かくれんぼ等	砂遊び，お母さんごっこ，お店　さん，ジュースさん，色々な　ごっこ，魚つり等
	学級全体	話を聞く，　をうたう，絵本・　居を見る，手遊びをする，表現遊び（握手でこんにちは，おおかみさん等）等	ーク　ンス，楽　，　ー　（イスとり　ー，　ン　チ落とし等），プール遊び　まつり等
ごっこの持つ要素		・場，物による安定 ・摸倣による自己開発	・好きな友達ができてくる。 ・物を媒介にして自己の要求を通すことができる。
獲得されていくもの		・場や物に慣れ，教師に親しみがもてる。 ・好きな遊びができる。 ・一緒に遊んでいる友達がいることに気付く。	・好きな友達と一緒にいたいという欲求。 ・教師や友達に，自分の思いや要求がだせる。 ・気のあった友達ができる。 ・遊びに必要なものがわかり自分でできる。

		期（　月～12月）	期（１月～３月）
発達の過程		◎友達関係を深めながら自己発揮をしていく時期 ◎友達とイメージを伝え合い，力を合わせてやり遂げる楽しさがわかる時期	◎友達同士で目的を持って，幼稚園生活を展開し，自信を持って行動していく時期
ごっこの位置づけ		・わかりあえる関係でごっこに必要なものを言葉を媒介に知らせることができ，遊びに対する共通理解や一緒に行なう遊びを深める活動としての意味がもてる。	・社会認識が定着したり広がったりする活動，グループの主体的な遊びになり得る活動としての意味がもてる。
環境構成		○目的にあった行動をするための試行に必要な材料が，自分の判断で使っていけるようにする。 ○気の合った友達グループがいろいろな遊びに進んで取り組めるように環境を整え，遊びを精選する。	○先行経験から必要なものを自分たちで用意していけるようにする。 ○生活の中にある機　や物を活用できるようにしておく。
教師の援助		○遊びの段階を見極め，遊びが発展していくための　ントや刺激を必要に応じて間接的に　えていくようにする。 ○個々で技能を高めたり，グループで目的に向かって努力している姿　やその過程を認め，それを幼児同士で気付いていくように配慮する。 ○幼児の自然発生的なごっこを　分育てていき，遊びを盛り上げていくようにする。 ○グループや学級で共通の目的をもって遊びが進められるよう，活動の精選とグループの　成を配慮する。（気の合ったグループ，教師の意図的グループ，活動　グループ） ○遊びに必要なものに気付かせたり，学級全体でのごっこに発展させ，幼児同士のつながりを深めるようにする。	
ごっこ・他の活動	個	絵本，運動遊び（なわとび，　　等） 作，　り　等	運動遊び，マラソン，こままわし，たこ作り，　作（　の面，ます，　人形）等
	グループ	かけっこ，リ　　遊び，ペープサート，劇遊び，楽　，　　居つくり，サッ　ー　ッジボール等	お　月遊び（　ル　，すごろく，　　い，トランプ）　　ごっこ，運動遊び，　ごっこ，相　，おしくらまんじ　う等
	学級全体	運動会，　足，　　ーク　ンス，お店　さんごっこ，クリスマス会，劇遊び	お　月遊び，　　ごっこ，劇遊び，劇場ごっこ，修　の共同制作（　り，　画）等
ごっこの持つ要素		・共通のイメージを持って課題に取り組む。 ・役割分担から社会認識が広がる。	・主体的，意欲的に取り組む中で，創造性の　生えを培う。
獲得されていくもの		・気の合った友達との仲間意識が強まる。 ・遊びに必要なものを工夫したり，考えたりする構えができる。 ・グループで目的や見通しを持って取り組む構えができる。	・先行経験を生かして主体的，意欲的に取り組もうとする構えができる。 ・表現活動への充実感，満足感を味わうことができる。

３　研究内容３

(1)　「よさ」を認め合う保育の実践

①　学級における仲間作りを広げるための教師の援助

幼児は，園の集団生活で起こる様々な葛藤やい　こ　を　り　えて友達と生活を共有していく。そのため幼児同士のつながりをつくるための教師の存在，役割は大きく，以下のような段階の援助が必要である。

ア　幼児の心情をよく理解し，受け止め，一人一人のよさを認め，学級として　ち解けた温かい雰囲気作りを心がけ，安心して自己発揮できるようにする。

イ　友達とかかわり合うきっかけとなる環境構成や援助をする。

ウ　様々な友達とのかかわりの中で，多様な経験をし，よさを相互に認め合えるようにする。

エ　集団で一つのものを作ったり，それぞれが役割を分担して一つのことを成し遂げたりすることを通して，仲間意識を高めるようにする。

②　「よさ」とは

「よさ」とは，思考や判断，表現などにおいて，幼児一人一人をその子の持ち味ととらえ，その子らしくいられることと考える。

幼児は，周囲の人々に自分がどう見られているかを敏感に感じ取っており，よき理解者としての教師の存在は大きい。自分に好意をもって温かい目で見守ってくれる教師との生活では，安心して自分らしい動きができ，様々な物事への興味や関心が広がり，自分から何かをやろうとする意欲や活力も高まる。

そして，一人一人のよさや可能性を見いだし，その幼児らしさを　なわず，ありのままを受け入れる教師の姿　により，幼児自身も友達のよさに気付いていき，認め合うことができていくと考える。

③　保育の中でよさを伝え合うために

・教師が積極的に幼児一人一人のよさを見つけ，　　ルとなりながら導いていくようにする。

・幼児同士が友達のよさを伝え合える場を設ける。

・伝え合う喜びを味わわせるようにする。

④　伝え合う場の工夫

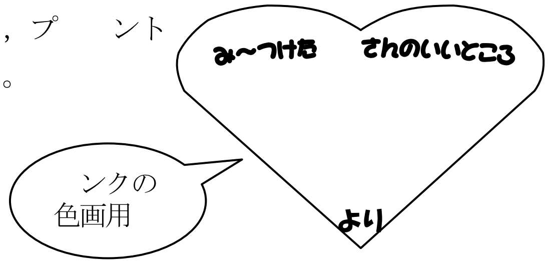
ア　友達みんなの　が見えるように，教師も一緒に車　になり，相手の　を見ながら伝えていくようにする。

写真

イ　話し合いの時のルールを子ども達と一緒に決めていき，確認していく。

・時間になったら　になって　ってまつ
・手には何も持たない
・おしゃ　りやいたずらはしない
・話をする人に，目・　・心・身体を向ける
・立ったり，歩いたりしてはいけない

ウ　友達のよかったところを　ー　に　　きらきら　ー　書き，プ　　ント　する。



エ　友達のよさを見つけられた子も　め，認める場とする。

写真

友達のよさを見つけることができた子には
メ　ル　の　ー　にシールを　っていった

指導の実

1　活動計画

回	月　日	ねらい(◎人とのかかわり)	活動内容（　認め合う場）	援助の
1	11 月 7 日 （　）	◎先生や友達と一緒に過ごすことの喜びを味わう。 ○みんなの好きな絵本を見て，クイ　遊びを楽しむ。	わくわく　イ ・絵本クイ　　『スイミー』 ・自分の意見(気持ち)を発表する。 ・絵本の主人　になったつもりで表現する。	楽しく進めながら友達の考えや思いを聞き，いろいろな考えがあることに気付かせていくようにする。
2 3	11 月 8 日 10 日 （2時間）	◎友達や先生と積極的にかかわりながら楽しさを共感しあう。 ○表現遊びを友達と一緒に楽しむ。	ごっこ（園庭） ・マグロの　や小さな魚になって楽しく遊ぶ。 ・友達の考えや思いに気付く。	遊びの中で，個々が思い思いに表現し，自分らしさが発揮できるようにする。
4	11 月 1　日 （　）	◎自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることに気付きながら遊びを進める。 ○イメージを　らませ，ごっこ遊びを楽しむ。	ごっこ，かくれんぼ（園庭） ・絵本の場面をイメージし、思いを伝え合いながら，楽しく遊ぶ。	伝え合えるような場を作り，自分のイメージを伝えながら遊びが展開できるようにする。
5	11 月 15 日 （水）	◎自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることに気付きながら遊びを進める。 ○イメージを　らませ，ごっこ遊びを楽しむ。	表現あそび ・　の中の生き物になって遊ぼう グループを決めよう ・どの役にするかグループで相談して決める（配役） きらきら　イ　（友達のいいところを探し伝える場）	遊びの中で「いい考えだね」と認め合う場面を捉え，共感し，他児にも気付かせていくようにする。
6	11 月 17 日 （　）	◎友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう。 ○グループで役のイメージを出し合いながら、どんな　りにするか話し合う。	それぞれの役の　りや振付けを決めよう ・イメージや考えを伝え合う きらきら　イ	・イメージやアイ　アを伝え合う場面を捉え認め励ましていく ・うまく伝えられない子の仲介役になる。
7	11 月 21 日 （　）	◎発表会について話し合い、どんな劇にするか思いを伝え合う。	発表会で劇をしよう ・一人一人の考えを聞きながらどんな劇にするか話し合う。	話し合いの場での一人一人のよさを認める　　ルとなるようにする。

8	11 月 21 日 22 日 (2 時間)	◎友達と積極的にかかわりながら，劇あそびを進めていくことができる。 ○発表会に必要なものを工夫して作る。	お面を　作する。 グループで劇遊びをしよう きらきら　イ	遊びの様子を見守ると共に困っている時にはア　　イスをしたりする。
10	11 月 2　日 (　)	◎自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞きながら劇遊びを進め，友達のよさに気付く。	グループで練習をする。 各グループの発表会をする。 きらきら　イ	「見せたい」気持ちが高まるような場の設定と認め合う雰囲気を作る。
11	11 月 28 日 (　)	◎友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ○友達と話し合ったり、協力したり役割を分担し劇に必要な物を作る。	台の　りや劇に必要な物を作る。 ・友達とイメージを出し合いながら小道具作りをする。	発表会への期待を　らませていき，友達と共通のイメージを持って進められるようにしていく。
12 13 1 15	11 月 30 日 12 月 1 日 12 月 5 日 12 月 6 日	◎友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ○友達と話し合ったり、協力したり役割を分担し表現する楽しさを味わう。	劇遊びをする。 ・せり　を覚えたり、役になりきって表現する。 ・友達と共に過ごすことで　しい，悔しいなどの多様な感情体験を味わう。 きらきら　イ ・気付いたことを伝え合う。	・個やグループの課題をもって取り組めるように励まし，認めていくようにする。 ・友達のよさに気付かせていく。
1	12 月 7 日 (　) 開 検 証 保育	◎遊びを進めながら友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わうことができる。 ◎友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。	劇遊びをする。 ・自分の役や　リ　がわかり，劇遊びに進んで取り組み，楽しむ。 ・お　さんの前で発表する。 きらきら　イ ・よさに気付き，伝え合う。	お　さんに見てもらう　張や　安を受けとめながら，人とかかわる楽しさを伝えていくようにする。
15 16 17	12 月 12 日 12 月 13 日 12 月 1　日	◎共通の目的に向かって，練習に進んで取り組み，仲間意識を高めるとともに，期待感を持つ。	意欲的に練習に取り組む。 ・友達と支えあい，励ましあいながら劇遊びをする。 ・気付いたことを伝え合う。	クラスのみんなでお互いを認め合いながら劇遊びに取り組んできた過程を伝え，さらに仲間意識を高め，やり遂げた満足感が　分に味わえるようにしていく。
18	12 月 15 日 (　)	◎生活発表会に参加し、みんなでやり遂げた満足感を味わう。	生活発表会でこれまでの　張りを見てもらう。 ・大　の前で，自分の役になりきって表現し楽しむ。	

2　検証保育時に心がけたい援助

援助の観	教師の援助・配慮
保育前の工夫	・始まる時間等を　示しておき，目的意識をもって取り組めるようにする。 ・　，手遊びなどを用いて子どもをリラックスさせるようにする。
教師の言動（集合時）	・　かい　　の表情と優しい言葉かけ，話し方を心がける。 ・集合時での説明等は，一人一人の反応を捉えながら話し，聞いていない子には，言葉だけの注意ではなく目の動きや間のとり方で知らせるようにする。（集中して聞いている子の　げにならないようにする） ・よさを伝える話し方の　　ルとなるようにする。 ・練習後は，それぞれを認め次回につなげる言葉かけを心がける。
教師の言動（活動時）	・教師の立つ位置を工夫し，各グループへの援助の　イミングやそれぞれのかかわりを捉えるようにする。 ・仲間となって一緒に活動する中で，子ども同士が相手のよさに気付いたり，認め合ったりするかかわりを見　さずに捉え，つながりを深めるようにする。
教　環境の工夫	・　　配置は，「前向き　」「グループ　」「車　」と活動にあわせて変えられるような広さを確保しておく。 ・イメージしたものがすぐに実現できるように教材コー　ーを設け，その中でも友達とのかかわりが広がるような　，イス，教具の配置をしておく。 ・グループの友達とかかわれるように各グループの　（テープ）を子どもが見える場に，また，　　ット　ッ　を子どもの　く位置に配置しておく。 ・グループの練習の進　状　や発表会までの流れなど動機付けとなるような表を準備し，活動後は確認できるようにしていく。
子どもの発表	・よさを伝える，相手の話はしっかり聞くというルールが守られている場であるようにする。 ・必要に応じて言葉の　足や　　を行なったり，　張する子の傍に寄り添うなど発表する子の思いを受け止めるようにする。

3　活動の　要

（1）「かくれんぼをしよう」　　11月1　日（　）　第4時

前時までの活動の流れ

　絵本『スイミー』の　み聞かせの後，小さな魚たちが大きなマグロに　　られてしまう場面を，　ごっこに見立てて「スイミー　ごっこ」が展開された。マグロの　と小さな魚たちのごっこ遊びである。園庭を広い　の中と設定し遊んでいると自然と「　が来たー，　く　げろ」「　　られたの？　念だったな　」「マグロが　いから　まった」と友達同士の会話も　み，全　が　まると「今度，マグロやりたい」と何度もごっこ遊びを楽しんでいた。

　登園するとすぐに「先生，今日もスイミーごっこやろう」「今日は，マグロやりたいなー」と言う子もいて，自主活動時にも取り入れながら遊びを楽しむことができた。

本時：一人ぼっちになったスイミーが小さな魚の　　たちを見つける場面を　かくれんぼにし，　ごっこと同様に園庭で遊ぶことになった。

遊びの中で友達に認められる楽しさを味わう場面

①　スイミーがたくさんいたらおかしいよ

・新しい遊びが展開されることになり，かくれんぼをしようとたくさんの子ども達が集まった。絵本のイメージを持っている子ども達はすぐに「スイミーやりたい」とスイミー役がたくさんになってしまった。

友達とかかわる幼児の姿，言動	◎教師の願い・援助　　考察
男「スイミーは一　しかいないのに，たくさんいたらおかしいだろう」 男「でも一人だったら見つけるのが大変だよ」 「そうだよ」「２人か３人でもいいんじゃない」と周りの子ども達に言われ， 男「じゃあいいよ，やってみれば」と少し　満そう。 ・スイミー２人で 30 数えるまでに　れることとなった。しかし，園庭が広く数え　わるまでに　れることができずほとんどの子がすぐに見つかってしまった。 男「やっ　り１人がいいよ」とまだこだわっているが 男「数えるのは 50 にしよう」 「どうして 50 にするのかな？」 男「30 だったら　いからすぐ見られた(　まった)けど 50 だったら大　夫だと思う」 「いい考えだね」 「じゃあ 100」「ううん，500 にしよう」と他児からいろいろな意見がでる。　男も　男の考えに　得した様子で 男「２人で 100 にしよう」と　　。 「うん，いいね～」「そうしよう」「いい考え」と言われうれしそうな様子であった。その後遊びが展開 ・その後，帰りの会の中で「みんなとかくれんぼをして楽しかったです」と発表した。	◎遊びの中での子ども達の考えや気付きを大切にし，相手に伝え合うことを大切にしていきたい。 男は，クラスのリー　ー的存在でもあり，物知りで優しい面も持っているが，自分の意見だけを通そうとすることが多い子である。 ↓ ◎友達の考えも聞き，受け入れられるようになって欲しい。 ・教師が友達の考えを受け止める　　ルとなるようにする。 友達の考えも受け入れることで遊びが発展したり，友達に認められる経験もでき，より遊びが楽しくなったようだ。

②　まだ，見つかっていないのに

・３回目のかくれんぼが始まり，「小さな魚」になりきっている子ども達が　れている時に，　子と　子が「先生，まだ見つかっていないのに～」と悲しそうにくる。前回のかくれんぼの時に２人で　れ，　にみつけられないまま，次の遊びが進行していたのだ。

友達とかかわる幼児の姿・言動	◎教師の願い・援助　　考察
みんなに取り　されたようで　安そうな２人。 「すご～い，今までずっと見つからなかったの？」と言うと泣きそうだった　が　　になり， 子「うん，誰も見つけなかったよ」	おとなしく，いつも 2 人だけで遊ぶことが多い　子らがごっこ遊びに参加してくれていることがうれしい ◎他児とのかかわりが広がっていけ

「え～，どこに　れていたの？」 子「先生，内緒だよ」「砂場の　の　の後ろに　れていたんだよ」「　がきたけど，見られなかった」 「そうだったんだ」「わかった，内緒ね　」	たらいいな ・見つけられなかったことを強調して認めてあげた。 ・みんなが　まり，次回の遊びが始まる前に２人のことを報　した。
子ども達「へ～，すご～い」「どこに　れていたの」 「　者になっていたの？」「わかった　明人間？」 子，　子「あはは，違うよ～」 「　れた場　は内緒ね」「でも，どうして見つからなかったのか，２人に聞いてみようか？」 子「何もしゃ　らなかった」 子「ずーっと　かにしていた」「2人で　れていた」 子ども達「先生，もう１回かくれんぼしよう」 子「次は　子たち，見つけよう　」	・他児とのかかわるきっかけ作りをする。 小さな声ではあったが，自分たちの経験を友達に伝えることができ，また認められたことが　しいようであった。

活動後，２ 人に感　を聞くと，「とっても楽しかった」「明日もやりたい」という答えがかえってきた

→　日の自主活動時のごっこ遊びで，２人も一緒に遊ぶことができた。

（２）「　の生き物になって遊ぼう」　第５時

くらげ・こんぶやわかめ・うな　・いせえび，さかなたち・いそ　んちゃくになったつもりで表現活動を楽しんだ。

「　の中だから，　ら　ら　れるんだよ」と手をぶらぶらさせたり，　がって身体をくねくねさせて「うな　だよ」と話し，個々が思い思いに表現を楽しんでいた。

⇒ 絵本の中の絵を見ながらみんなでイメージを出し合うことに・・・

くらげ

K男「　ら　らしている」
N男「かさみたい」
子「ほんとだ，かさに　ら　らつけたらそっくり」

いそ　んちゃく

「　ン　ンみたいー」
「本　だ」
運動会のリ　　で使用したためか全　のイメージが一　。

いせえび

K児「はさみ持って　る」
みんな「　ないだろう」
男「でもはさみあるよ」
K児「えびマ　マ　，えびマ　と　　ソングで　りだす

うな

男「なんか，　もみたい」
「　にも見えるな～」
運動会の　念　で　　びをもらい，挑戦する子も増えていたためかほとんどの子が「なわとびだ～」と連

こんぶやわかめのはやし

子「はっ　みたい」
子「いっ　いあったら　になるよ」
どこからか見つけてきたチラシの　を振り回している　男の　に緑の　ニール　をつけてくるくる回してみせた
「リボンだ」「わーこんぶに　ている」「　男貸してー」

第６時

グループに分かれ，　の中の生き物それぞれになって遊ぶことになった。

⇩

「　ン　ン使っていい？」「リボン作りたいから　貸して」とそれぞれのグループで必要なもの作ったり，　りを楽しんだ。

（３）「生活発表会で劇をしよう」　　　第７時

12 月に生活発表会があることを話すとすぐに「スイミーの劇をしたい」ということになり，どんな劇にしていくか話し合っていった。

子ども達の姿

ごっこ遊びで楽しんだ「かくれんぼを劇の中でやりたい」，「グループで決めた　りもやりたい」といろいろな考えがでてきた。劇には　リ　や音楽なども必要だと話すと「わかるよ，　　ー　ーでし　う」と保育園で経験したことのある　子が言った。「お面とかもつけよう」と話す子も・・・。

①お面を作りたいといった子の意見を取り入れ，作りたい時に自分たちで作れるように材料を準備し，教　に　作コー　ーを設けた。

②グループの活動を中心に劇遊びを行なっていった。

空き　や　乳パックの　　を　用してのお面作り
各材料　にかごに入れ，　付けもしやすいように。

写真

小さな赤い魚やスイミーのお面作り

写真

作コー　ーの傍の　面は「スイミー」の絵本をイメージした環境を構成。絵本も目のく場　に置いておき，イメージを持ちやすいようにした。

子どもの姿

各グループで，　の中の生き物について話し合ったイメージを基に　を決めたり，それにあわせた　りを決めていった。また，小道具作りなど協力しながら進めていく姿が見られた。

写真

自主活動時も「先生，コンブやわかめの　りを決めてもいい？」などと自分たちで練習する姿

写真

「ここは黄色を塗るから，Ｎくんは緑を塗ってね」

くらげグループは，子ども達がイメージした“かさ”を取り入れることに
　分をはがし，絵を　いた　の　ニールを　り付けて　　　　感を出していった。

認め合う子どもの姿

ン　ンをイメージしたイソ　ンチ　クのグループは，　に合わせて「こんな　りは？」と回って見せた子に「すごーい，いいね　」「かわいい，そうしよう　」と認め，一人一人の意見を取り入れながら次々と決めていき，自分たちで練習を進めていく姿があった。

他のグループにもいつも「すごい」と認められるグループであった。

（4）「グループの発表会をしよう　」　　第10時

子どもの姿

それぞれのグループの　や　り，また　りに使う小道具なども出来てきて，子ども達は，自分たちの遊びを進めながらも他のグループを意識し，見ながら一緒に　ったりするようになってきた。

各グループの発表会を行うことにした。

それぞれのよさに気付き，認め合う場となるようにし，クラスみんなをつなげるきっかけとなるようにした。

ールでのグループ発表会

初は，元気いっ　いのくらげグループが「やりたい」と手をあげた。手作りのかさをくらげに見立てての　りに「本物のくらげみたい」「かわいい」と　声があがる。

教師の援助として

「本物のくらげみたい」　「グループのみんなで協力して作ったからそっくりのものができたんだね」

「かわいい」　　「みんなで練習をいっ　いやったんだね」と子どもの意見を取り上げながら“よさ”として気付かせていくようにした。

びで表現するうな　グループは，どの子も　　るようになったことを　するなど，それぞれのグループの　りを見せ合うことが出来た

しかし，

けることが多いいせえびのグループは，　りの流れや振り付けがほとんど決まっておらず　ラ　ラで，「おもしろい」と　っている子もいるが，子ども達から「ちゃんとやらないと～」「変なの～」と言われた

教師の援助として

①どうしたらいいのか考えることができるように他児たちに　げかけてみる。

「　張ろうって決めて練習したらできるよ」

「みんなで一緒に決めたほうがよい」

「　　けるからできないんだよ」と友達からア　　イスを受ける。

周りからいろいろなことを言われたことで　計に　　けてみせる　男のグループ

②練習も　わり，しばらくしてミルクの時間。担　にお願いして，劇のグループでおやつを　くことにしてもらった。

教師も一緒に　男のグループでおやつを　き，おしゃ　りをしながら「得意なこと」を聞くと「ない」と答える男児たち。教師が「　男たち，いつも側　したり逆立ちしているでし　う　あれは，みんなはできないんだよ。すごいことだよ」と言うと「先生，見たの？」と　　になった。「得意なことをやってみたら　」と言うと「やりたーい」とすぐに決定した。

事を決め，　　練習開始

- 練習する時は，先生がいるときに一緒にやること
- 必ずマットを　いてすること
- 広いところですること

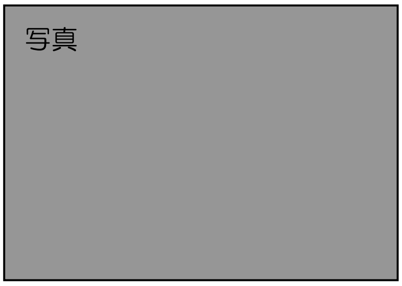
その後，自分たちで話し合い，グループでの活動を進めていき，側　と組み体　も取り入れての振り付けが完成していった。

（5）「劇に必要なものや　台の　りつけを作ろう　」　　第 11 時～

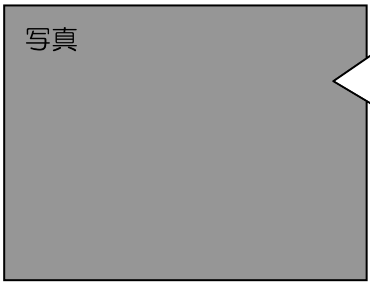
子ども達の姿

劇遊びが進む中で，子ども達からいろいろなイメージが広がっていった。　台をの中にするためには，絵本のように「岩があること」，「そこで小さな魚たちがれられるようにすること」，「　　やわかめ・イソ　ンチ　クが　ら　らと　れていること」ととし，協力しながら作っていった

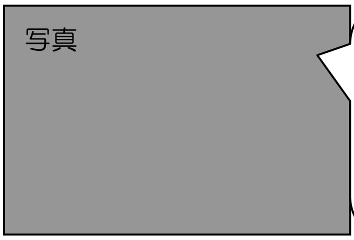
チラシが足りないから，もっと取ってくるね



友達とかかわり，ごっこに必要なものを相談し，工夫しながら作っていく姿



この岩，何色にする？



テープ付けるから，ここをつかまえていてちょうだい

（6）「先生，スイミーの劇も練習しよう　」

生活発表会には，クラスのスイミーの劇以外にも，園全体でクラスの　をはずし，ペープサートやリ　　，エイサーなど自分でやりたいものを選択した　目もあり，　日と時間を決めて練習を行うことになった。そのため，劇遊びをやらない日もでてきた。

子ども達の姿

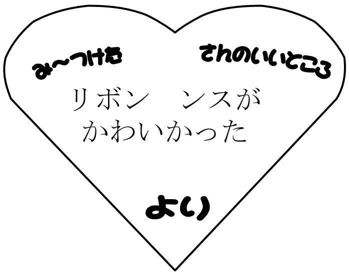
「先生，スイミーも練習したい」「　く，　わったら　リ　の練習していていい？」と練習のない日を　念がる子どももたくさんいた。

環境構成の工夫として

・全体での練習は時間の　合上できない日は，劇の流れが書かれたシ　リオや　を準備し，空いている時間にできるようにした。
・生活発表会までの日程表などを作り，自主的に練習を行なったグループには，◎　をつけていき動機付けを行なった。

友達のよさを伝えるきらきら　イ　では・・・

・イソ　ンチ　クのグループは，いつも一生　　練習をしていて　りも上手になってきてすごいと思う。
・　くんは逆立ちの練習の時につかまえてくれた。
・なわとびであきらめずに　張っていました。



と，たくさんの「よさ」がでてくるようになった。

4　　開検証保育

開 検 証 保 育 指 導

平 成 18 年12 月　7日　(　)

立 宮 里 幼 稚 園　３組

男児 16 名　　女児 16 名　　計 32 名

保育者　大　　　（１）　　　（２）

（１） 活動名　「『スイミー』の劇遊びをしよう」

（２） 活動設定の理由

① 教材観

ごっこ遊びからの　行である劇遊びは，子どもが自分の経験や願望，知っていることを，友達と一緒にイメージを広げながら，自分たちで創造していくことのできる遊びである。

『スイミー』の絵本は，これまで何度か　み聞かせを行ない，子どもたちが好きな絵本の　とつで，すぐに絵本の中のイメージを　らませ，ごっこ遊びを楽しむことができる。また，グループに分かれそれぞれが考えや思いを出し合いながら遊びを進めていくための適　な配役もあり，遊びを進めながら積極的に友達とかかわることができると考える。共通の目的に向かって友達と話し合ったり，協力したり役割を分担する中で友達のよさに気付き，一緒に表現する楽しさを味わうことができる教材である。

② 幼児観

運動会を経験し，やり遂げた満足感から友達と力を合わせる楽しさがわかる時期である。友達を　って，イメージを伝え合い，自分たちでルールを決めながらごっこ遊びを楽しんだりする姿も見られる。しかし，友達関係が広がってきた反面、自己主張も強くなりトラブルも多々見られる。遊びの中で自分の思いを伝え，友達の考えも受け入れる機会を作ってあげることで少しずつ相手のよさにも気付いていける時期であると考える。

③ 指導観

『スイミー』の絵本から子ども達のイメージを　き出していき，伝え合いながらごっこ遊びを展開していった。グループに分かれて表現する場面では，自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることを受け入れることで，たくさんの考えやアイ　　アが生まれ，一緒に活動する楽しさを味わっている。各グループの表現を見せ合ったり，そこでの　張っているところや良かったところを話し合うことで，自分たちももっと　張ろうという気持ちももちつつある。

本時は，来　に　えた生活発表会に向け，練習に取り組み，友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつことをねらいとする。自分ではやり遂げることが　しいことも，　張っている様子ややり遂げようとする気持ちが認められることで，自立心や　　感もはぐくまれ，より人とかかわる力が育ち，一緒に活動する楽しさを味わうことができると考える。

<table>
<tr><td>幼児の姿</td><td colspan="4">・劇遊びを進めていく中で「くらげはかさに　ているね」「うな　は　みたい」とイメージを伝え合ったり，必要なものを相談しながら作っていく姿が見られた。
・自分たちで　りを決めたり，　リ　の練習を進んで行なうグループもある。
・お　さんに見てもらうことを楽しみにし，みんなで　張ろうという気持ちをもちつつある。</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="2">◎遊びを進めながら友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わうことができる。
◎友達と一緒に共通の目的に向かってやり遂げようとする気持ちをもつ。</td><td>内容</td><td>・自分の役や　リ　がわかり，劇遊びに進んで取り組み，楽しむ。
・友達のよさに気付き，伝えあう。</td></tr>
<tr><td>活動説</td><td colspan="4">友達と一緒に生活発表会に向けての練習に取り組む中で，　張っている様子ややり遂げようとする気持ちを「わくわく　イ　」で認めることによって，先生や友達とかかわる楽しさがわかり，進んで人とかかわろうとする力が育っていくであろう。</td></tr>
<tr><td>時間</td><td colspan="2">◎　　される幼児の姿</td><td colspan="2">教師の援助　　○環境構成</td></tr>
<tr><td>
9 00

9 05

9 15

9 35

9 0

9 50</td><td colspan="2">
◎手話ソングをうたう
「きみに会えてうれしい」

◎みんなでスイミーの劇遊びをしよう
・今日，　張りたいことをグループで話し合う。
・グループの　表が発表する。
・　ールに　動し，準備する。
・みんなで劇遊びを楽しむ。
それぞれの役になりきって，表現したり，　に合わせて楽しく　る。
・協力して　付ける。
（教　へ　動）

◎わくわく　イ
・車　になって　る
・楽しかったこと，困ったこと，友達をみていいなと思ったこと等を伝え合う（きらきら　ー　の　　）

担　に　き　ぐ</td><td colspan="2">事前にトイ　，手　いを　ませておくように声をかけておく。
楽しい雰囲気の中で，始めることができるようにする。
○　　ット　ッ　，テープを準備しておく。
それぞれの気持ちを受け止め，クラスみんなの気持ちへとつなげるようにする。
自分たちで準備ができるように見守る。
演じ方や声の出し方など，　張っている子を認める場を設け，他児に知らせたり，必要に応じてア　　イスをする。
協力し合っている姿を認め，励ましながら，自分たちで進めた楽しさや満足感を味わわせるようにする。また，できていない子の気付きにもなるような言葉かけをする。
発見や感じたことをみんなで共感し合えるような雰囲気をつくる。
・発表する子の気持ちになって聞くことができているか
○きらきら　ー　を準備しておく。
友達のよさに気付いた子のよさも認め合えるようにする。</td></tr>
<tr><td>評</td><td colspan="4">自分の出　や　リ　がわかり，劇遊びに進んで取り組むことができたか
みんなでやり遂げる充実感を味わうことができたか
友達のよさを見つけ，相手に伝えることができたか</td></tr>
</table>

開 検 証 保 育 の 様 子

写真

①手話「きみに会えてうれしい」

「先生は，今日も
みんなに会えてうれ
しいです」

子ども達の元気いっ　いの声，
楽しい雰囲気の中で始まった。

→

今日のねらいが達成できるように，目的意識を
持って取り組めるように，子ども達と保育の
流れを確認します。

②グループで話し合い

今日も大きな声で
リ　を言おうな

写真

写真

今日　たちのグループ
は，うな　の　　びを
張ります。

グループで　リ　の確認や，今日　張り
たいことを話し合い，決めます。

→

グループで話し合ったことをクラスの
みんなに伝えます。

③　ールに　動して劇遊びをしよう

写真

Kくん，お面忘れてるよ

→

広い　のどこかに
小さな魚の　　た
ちが・・・

写真

劇に必要なお面や道具は
自分たちで準備をします

自分の役や　リ
がわかり，劇遊び
に進んで取り組み
楽しんでいる姿

もういいかい？

写真

しかし，出　を待っている友達の
傍ではけんかが起こることも・・・

写真

どうしたらいいのか考えてみて　。決まったら 2 人で先生に教えてね

話し合うきっかけだけを作り　せてみる

④友達のよさを伝えよう

劇遊びを楽しんだ後は，みんなで　になり「わくわく　イ　」

ートのきらきら
ー　に　入し，
プ　　ント

写真

今日の練習で○○さんの　りがとても上手でした

・一生　　　張っていて
　すてきでした
・大きな声で言っていた
・いそ　んちゃくのグループが
　とっても上手でした。

写真

5　　開検証保育の考察

活動　説

友達と一緒に発表会に向けての練習に取り組む中で，　張っている様子ややり遂げようとする気持ちを「わくわく　イ　」で認め合うことで，先生や友達とかかわる楽しさがわかり，進んで人とかかわろうとする力が育っていくであろう。

(1)　自分の出　や　リ　がわかり，劇遊びに進んで取り組むことができたか

・劇遊びに必要なお面やそれぞれの役の小道具，それを　付けるためのかご等，自分たちで　　をもって準備をする様子も見られ，進んで参加していた。
・お　さんがいることでの　張もあったが，見てもらうことを意識して，普段よりも大きな声で　リ　を言ったり，　りを楽しみながら劇遊びを進めることができた。
・自分の出　を待っている時に友達と小道具の取り合いでけんかになった子がいた。普段からじっと　ることができない子ではあるが，自分の出　や　リ　はわかり，出　が来ると参加することができるため，グループの　りの間にみんなで言う　リ　を加えたりして，その子にもクラスの一　であるといった連　感が育つようにしていきたい。

(2)　みんなでやり遂げる充実感を味わうことができたか

・生活発表会の日まで，あと 1　間ということもあってみんなでやり遂げようとする気持ちと期待感を高めるようにしてきた。いつもの練習とは違い，お　さんの前で劇遊びをし，　手をもらったことで満足した　を見せていた。

・　が　き　しぶりに登園した友達を気い，　リ　を確認する場面も見られ，みんなで　張ろうという気持ちが育ってきたように思えた。
・保育後、「みんなが　張っていてすごかったと思う」という子どもの感　がたくさん聞かれたことから自分も含めたみんなで行なったことへの充実感を味わっている様子であると思われる。

⑶　友達のよさを見つけ，相手に伝えることができたか

・劇遊びを進めていく過程で，これまでも友達のよさの見つけ方（教師や友達を　ルにして）や認めていく場を設け，伝える活動を多く持ってきたこともあって，検証保育時も進んで発表する（伝える）子が多く見られた。
・「大きな声で　リ　を言っていた」「本の魚のように　いでいるみたいだった」と個人の　張りや「　りを一生　っていた」などグループでの　張りを認め，発表することができた。

検証保育では，これまでの友達とのかかわりで　張ってきたことを確認し認めながら進めたことで，初めのグループの話し合いでは，劇の　リ　を確認するグループや「今日も一生　張ろうな　」「　り，間違えないでよ」「　張るぞーエイエイオー　」と見てもらうことでの意欲とこれから始まることへの期待感を高めることができた。

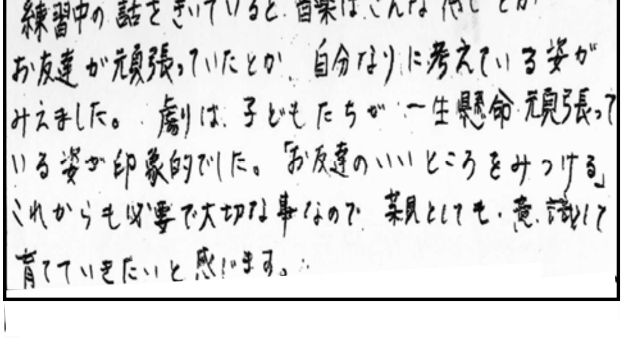
参加者からは，

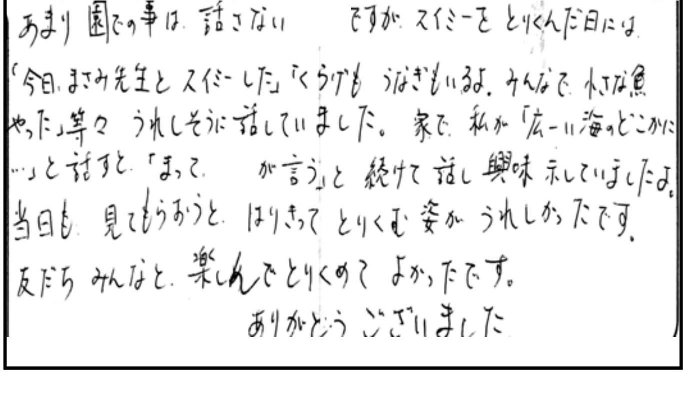
・とても楽しそうにやっているのがかわいかった。
・教師の話をしっかり集中して聞いているのでびっくりした。
・保育をした後の振り返りの時間を設けたことに意義があると思う。
・子どもと触れ合う時の　離感がよかった
・友達から認められ，きらきら　ー　を受け取った時にうれしそうにすぐにかばんの中に入れている子が　象的だった。

という感　が聞かれた。

しかし，子ども達の伝え合う場面では，主語や　語がはっきりしているなどの話し方の工夫をもっとして欲しかったという意見もあり今後の課題である。

生活発表会後の保護者の感


練習中の話をきいていると音楽はこんな感じとか
お友達が頑張っていたとか 自分なりに考えている姿が
みえました。劇は子どもたちが一生懸命頑張って
いる姿が印象的でした。「お友達のいいところをみつける」
これからも必要で大切な事なので親としても意識して
育てていきたいと感じます。


あまり園での事は話さない　ですが、スイミーをとりくんだ日には
「今日、まさみ先生とスイミーした」「くらげもうなぎもいるよ、みんなで小さな魚
やった」等々うれしそうに話していました。家で私が「広ーい海のどこかに
…」と話すと「まって　が言う」と続けて話し興味示していましたよ。
当日も見てもらおうとはりきってとりくむ姿がうれしかったです。
友だちみんなと楽しんでとりくめてよかったです。
ありがとうございました

研究の結果と考察

本研究はテーマを「相手のよさに気付き認め合うための援助の工夫　～ごっこ遊びを通して～」と設定し，基本　説を「ごっこ遊びを通して，自分の思いや考えを伝えたり，相手の思いにも気付かせることによって，互いによさを認め合うことができるであろう」とし，研究を進めてきた。さらに基本　説を具体化した３つの具体　説を立て，理　研究を行い，検証保育を実践してきた。そこで，３つの具体　説を検証することにより，本研究の結果と考察とする。

１　具体　説１の検証

「人とのかかわり」の意義を捉え，幼児の実態を把握することで，教師の援助の在り方が明確になるであろう。

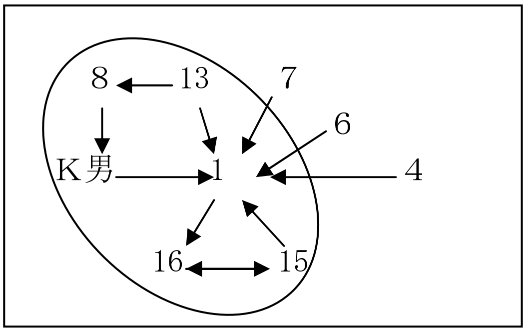
幼児期の発達の特性と人とかかわる力を育む過程やその意義を捉えたり，保護者へのアンケート調査を行なうことによって，幼稚園における友達との生活の重要性や教師の援助の在り方の方向性を　ることができた。

また，幼児へのソシオメトリックテストを実　することによって，クラス内の仲間関係を知ったり，教師の観察やかかわりでは見えなかった子どもの実態を把握することで，一人一人の幼児への援助にいかしていくことができた。

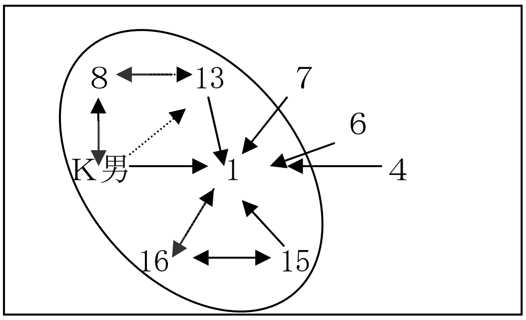
事例１は，普段友達とかかわって遊んでいる様子が見られていたにもかかわらず，ソシオメトリックテストでは，好きな友達を一人しか上げることができなかったK男へ行なったグループ　成である。

K男が選択した「1　の男児」は優しくて他児からも人気があり６名からの選択があった。そのため「1　の男児」と，またK男を選択した「８の男児」とを一緒にしたグループを作り，　らとのかかわりから他児へのかかわりへと広がっていけたらと願い　成した。

事例１　　　　　10 月



検証保育後　　１月



満　向で運動遊びを苦手とするK男だが，グループの話し合いで「　　び」をすることになった。「どうせ，できないのに」とすぐに　めてしまい，他児が練習している傍を　ら　らと歩いていた。しかし，その場を離れることはなく，他児を気にしている様子でもあったので，「1　の男児」にK男を練習に　うように働きかけていった。K男が　　びを持つ，　を回してみる，　んでみるといった段階を見　さず「もうち　っとだ，おしい」と声をかけたり，一　上手な「16 の男児」に“なわとび先生”になってもらったりと教師も意図的にグループの仲間となってかかわるようにしていった。

検証保育後の１月に実　したソシオメトリックテストでは，K男は１，13，８の男児を選択した。また，16 が１，１　が 13，８が 13 の男児を選択し，新たな相互関係も見られた。

このように幼児の実態を把握したりしていくことで，一人一人にあった教師の援助の方向付けができ，信頼関係をより深めていくことで幼児同士のかかわりにも変化をもたらしていった。

これらのことから，具体　説１は検証されたといえる。

２　具体　説２の検証

> 他児とのかかわりを意図的に計画し，人とかかわる楽しさを味わわせることで，自分の思いや考えを伝えあうことができるであろう。

検証保育では，　ごっこやかくれんぼなどのごっこ遊びを楽しむことからクラス全体での劇遊びへと発展させる活動を行なった。

スイミーの絵本を用い，クラスみんながイメージを共有できたことで，どの子も進んでごっこを楽しみ，絵本の中の生き物になったつもりで自分を表現し，その楽しさから友達とかかわることができていった。

これまで大　での遊びには興味を示さなかった２人の女の子の実践例からも，友達とかかわって遊ぶ楽しさを味わう経験をしたことで，小さな声ではあったがみんなの前でも自分の意見を言うことができたのだと思われる。

また，劇遊びへ展開した活動　初は，自分の思いや考えを伝えやすいように少人数でのグループ活動を重　し，話し合いの場では，担　や　園長の協力を得て，各グループの子ども達のイメージを　き出したり，仲間をつなげるパイプ役になるように努めてきた。各グループの　りや振り付けを決めて練習していく過程では，感じていることを身振りや表情で互いに表現し，確認しあいながらイメージを伝え合うことで遊びが進んでいく姿も見られ，友達とのかかわりを　分に楽しむことができた。

また，遊びが進む中で，自分たちで“より遊びが楽しくなるためには”と考えを伝えあい，劇に必要なものを考　していったり，動きに変化を付けていく場面も見られた。

このようにごっこ遊びから劇遊びへ意図的に計画したことにより，友達とかかわる楽しさを味わい，自分の思いや考えを伝えあうことができていった。

このことから，具体　説２は検証されたといえる。

３　具体　説３の検証

> 遊びの中で，お互いのよさを認め合う機会を持つことで，自己肯定感も高まり，よりよい関係作りができるであろう。

「友達のよさを見つけよう　」と子ども達と話し合い，取り組みを重　してきた保育後の振り返りの時間は，初めは「楽しかった」「おもしろかった」「またやりたい」と自分の思いや感　だけをいう子が多かった。しかし，回を重ね友達とのかかわりが増えていくことで，「　さんは，お面を作る時に（優しく）教えてくれた」「大きな声で　リ　を言っていたのでよく聞こえた」「練習を一生　　張っているからすごかった」などと友達を認めていくことができるようになった。

また，認められることで今度は相手のよさを見つけようとし，発表の場でお互いが相手のよさを伝え合う関係が　々にできていった。そのことで，さらにかかわりに変化が見られ，　　やおやつの時間も「スイミーのグループで　　たいな」と一緒にいることの楽しさが広がっていくようであった。

１月に行なった「お子さんの話の様子から友達とのかかわりで変化が見られるか」を聞いた保護者へのアンケートから

- 入園時は自分のことばかり話していましたが，　近では友達のいいところを　め，話してくれます。
- 降園後に友達と遊ぶようになり，「みんな待っているから」と　　をしてくる
- 特に友達の名前がでてくるようになり，仲のよい友達がいることは大事なことで親としては　しい。
- 友達と遊んだり，学習したりすることを楽しみにし，変わったことがあれば報　しています。習った　もよく　ずさんでいます。
- 「けんかをした」と話すこともありますが，

友達のすごいとこをよく話してくれます。

近では，「○○は，　　び上手だよ」「○○は　ープが上手だよ」と言い，本人も　張ろうと思うようです。

と，たくさんの意見も聞かれた。

このことからも，友達のよさを見つける機会を作ることで，友達との関係もよくなり，友達とのかかわりから自分も　張ろうと意欲を高めたり，自分のよさを認識することができていったのだと考えられる。よって，具体　説３は検証されたといえる。

Ⅸ　研究の成果と今後の課題

１　研究の成果

○　保護者へのアンケート調査から幼児の「人とのかかわり」における実態を把握することにより，幼稚園生活の中で，友達とのかかわりを充実させるための時間や環境構成の必要性が明確になった。

○　ソシオメトリックテストを活用し，幼児のクラスにおける仲間関係を把握したことで，より具体的な指導や援助ができた。

○　幼児期の発達の特性と「人とのかかわり」，また教師の援助の在り方についての理　研究を深めることによって，一人一人の育ちにあわせた指導や援助ができた。

○　環境構成の工夫により，幼児が友達とかかわって遊ぶ活動に進んで加わることができ，自分一人だけの遊びでは味わえない楽しさや満足感を味わわせることができた。

○　自分の思いや考えを伝えられるように援助し，幼児が伝え合うことで，友達との遊びが深まる楽しさを味わわせることができた。

○　遊びの中で，お互いのよさを伝え合う場を設け，認め合う活動を行なったことで，友達とのかかわりに広がりが見られ，自己肯定感を高めることができた。

○　グループ，クラスで共通の目的に向かった活動を行なったことで，協調性や社会性が身についてきた。

２　今後の課題

・　アンケートや各検査等も活用しながら，一人一人に合った指導・援助の工夫，　　を常に行なう保育実践

・　幼児同士が人間関係を深めていくための年間を通した指導計画の作成と実践

・　交流保育を取り入れた家庭や地域の人々との連　の強化

《　主な参考文　・　用文　　》

・文　省　1999『幼稚園教育要領解説』

・小　　　　上　　小 豊　 長　 子　　1999『新幼稚園教育要領の解説』　うせい

・　　　章 高　自子 待　　　　上　　『ごっこ』チ イル 社

・文　省　1995『一人一人に応じる指導』　ー ル

・ 上　　1991『保育のなかのかかわり　人間関係　』　ー ル

・　　　子　1996『子どもの心によりそう保育』　かりのくに

・ 藤　　長　　子　　200 『幼稚園教育の新たな展開』　うせい

・　　　男　2006『はじめて学ぶ乳幼児の心理』有　 ブックス

・　　　行　2003 幼稚園教育要領の解説と実践②『保育者の新たな役割』小学

・　　　行　2002『人間関係』　かりのくに